

令和6年度（2024年度）大分大学学校推薦型選抜試験問題

小 論 文

（経 済 学 部）

商業推薦

解答時間 90分

問題用紙11枚（表紙を含む）

注意：解答はすべて解答用紙に記入すること。

令和6年度(2024年度)

大分大学経済学部推薦入試試験問題

商業推薦

[小 論 文]

【問】

「本」*をめぐる社会的経済的状況の変化は、読書をする環境を大きく変えつつあります。【資料1】から【資料3】を読んで、次の問いに答えなさい。

【問1】

【資料1】について、図1と図2を含む内容を読み解きながら、書店業界と図書館のそれぞれの立場からの意見の違いを300字以内(句読点を含む)で要約しなさい。

【問2】

【資料2】と【資料3】を読み、「本」を身近に感じ、読書しやすい社会をつくるためにはどうしたら良いか、あなたの考えを500字以内(句読点を含む)で述べなさい。

*「本」には、紙の書籍・雑誌、電子出版物、点字図書やデジタル録音図書などを含む。

【資料1】図書館の人気本所蔵、どこまで 自民議連「書店支援」提言、国が議論へ

図書館がベストセラーを過剰に購入しないように、ルール作りを——。国がそんな検討の場を今秋にも設ける。急減している書店の支援策として、自民党の議員連盟が出した提言を受けたものだが、図書館側からは困惑の声があがる。

文部科学省で開かれる会議には、書店や出版の関係者、図書館関係者らが参加。公立図書館で同じタイトルの本を過剰に持つことの禁止や、地元書店からの優先仕入れの推奨、新刊本の発売から購入までに一定の期間を空けることなどについて、ルール作りが必要かどうか議論する。

政府関係者は「人気本の所蔵数などの制限ありきではなく、ゼロベースで話し合ってもらおう。書店と図書館が、共存関係で読書推進につなげる議論をしたい」と話す。

書店の経営は厳しさを増している。業界団体・日本出版インフラセンターの調査によると、全国の書店は1万1495店（2022年度）と、10年前から約3割減った。地方だけでなく、都心部の有名書店や大型書店も相次いで閉店している。

出版文化産業振興財団（JPIC）の調査によると、書店が一つもない市区町村は全国で26.2%。人口減や雑誌の売り上げの急減、ネット書店で本を買う人が増えたことなどが背景にある。書店業界から支援の要望を受けた自民党の議員連盟は今春、図書館との連携促進やアマゾンなどのネット書店との競争環境の整備などを求める提言をとりまとめた。

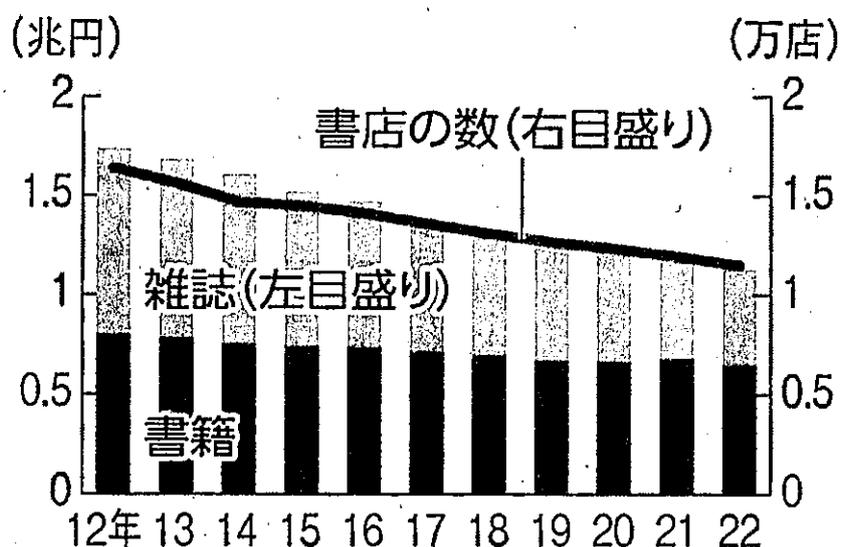


図1 紙の出版物の推定販売金額と書店の数

出版科学研究所，日本出版インフラセンター調べ。書店の数は年度

蔵書購入、ルール必要？ 自民議連「人気のある本に偏重」 図書館「予算減り過剰複本無理」

苦境の書店を支援するため、公共図書館での本の購入にルールが必要かどうか、議論が始まる。知る権利を保障する図書館からは困惑の声も。図書館の貸し出しの実態はどうなっているのか。

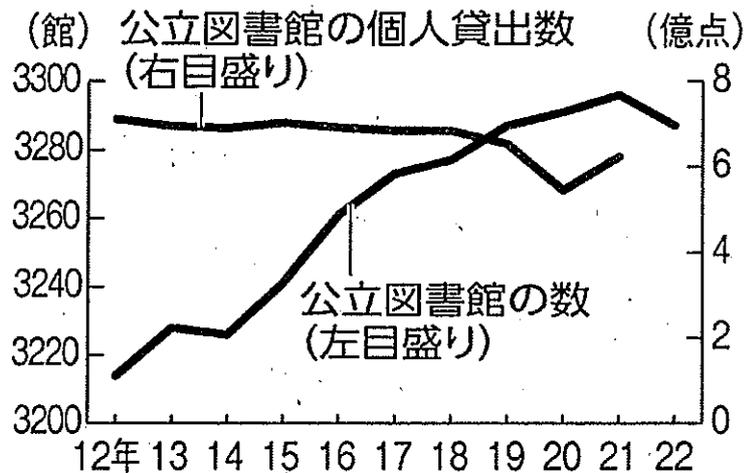


図2 公立図書館の数と個人貸出数

日本図書館協会調べ。個人貸出数は年度

図書館が同じ本を複数備える「複本」については以前から作家や出版社が「無料貸本屋化している」と指摘していた。今回は、自民党の議員連盟が書店支援策を議論した際、「蔵書が人気のある本に偏り、多様な世界に接する機会の減少につながっている」と指摘された。

図書館で購入する本はどう選んでいるのか。

文部科学省は公立図書館の設置や運営について基準を定めているが、複本に関するルールはない。各図書館で、予約者数や図書館が作成した選書の手引などに照らして決める。日本図書館協会の「図書館の自由に関する宣言」では、図書館を「国民の知る自由を保障する機関」と位置づけ、資料を幅広く収集することなどを定める。

東京都内最多の16の図書館がある世田谷区。人口約92万人に対し、区全体で約200万冊の図書資料がある。

区立図書館では、予約の取り置き期限が1週間、貸し出しは2週間。本を「持つ」ことができるのは1人最大3週間で、1冊が1年で18人に回る計算になる。このため、予約数が360件までなら20冊が必要、といった形で、購入冊数の上限の目安を決めているという。

例えば、今年の本屋大賞を受賞した凧良(なぎら)ゆうさんの小説「汝(なんじ)、星のごとく」は、区内全体で計55冊所蔵され、1884人待ち(27日現在)。借りるには、長ければ2年弱待つことになる。

区立中央図書館の斎藤稔館長は「本を買ってほしいとの出版界の声も理解できるが、図書館には知る権利を保障する役割もあり、待たせることへのお叱りの声もある。板挟み状態で悩ましい」。55冊が適正かは「正直、わからない」と漏らす。

日本図書館協会によると、全国の公立図書館はこの20年で約600館増え、2022年は3287館。だが、1館あたりの図書資料などの購入費の予算は20年で約3割減り、840万円だ。同協会の鈴木隆副理事長は「『過剰な複本』と呼ばれるような実態はほとんどなく、最近では資料購入費が減って本を買えないことの方が問題」と話す。

全国582館の公共図書館を運営する民間企業の図書館流通センター（TRC）は、「限られた資料費で蔵書を満遍なくそろえようとする、必然的に特定の書籍ばかりを購入することは難しい」と回答した。

協会は2月、東京23区や人口30万人以上の都市部にある中央図書館計95館を対象に調査を実施した。東野圭吾さんの人気小説「マスカレード・ゲーム」の1館あたりの所蔵冊数を聞いたところ、回答のあった68館の8割で、3冊未満だった。人口が多い自治体でも複本は「抑制的」とみる。

本の購入先についても聞いたところ、回答のあった42館のうち77%が、半数以上を地元書店から購入すると回答した。

図書館の蔵書や貸し出しは、新刊本の売り上げに影響しているのか。

日本大の大場博幸教授（図書館情報学）が19年に600作品を例に調査、分析したところ、ある書籍が全国の図書館に100冊所蔵されていれば、日本全体でその新刊の売り上げが6冊減ることがわかった。大場教授は「影響は確かにあるが、大きいとは言えない」と指摘する。また、ベストセラーで特に目立つわけでもなかった。「書店と図書館の双方が、図書館所蔵の影響について共通の認識を持つことが必要だ」と話す。

近年は利用者の「居場所」としての機能も求められている。「変化する役割にも着目し、適切な本の購入のあり方を考えるべきではないか」と話す。

出典：朝日新聞デジタル 2023年8月28日より抜粋・一部改変

(https://digital.asahi.com/articles/DA3S15726716.html?iref=pc_ss_date_article.2023/09/10より)

(https://digital.asahi.com/articles/DA3S15726739.html?iref=pc_ss_date_article.2023/09/10より)

※承諾番号:24-1101

【資料2】 変わる公立図書館，いいの？ 司書半減…でも屋上テラス

南海和歌山市駅（和歌山市）の再開発の目玉として、6月5日に全面開業した新しい和歌山市民図書館。多くの市民が訪れ、にぎわいの中心となっている。一方、公立図書館の役割として重要なのが、地域の歴史や文化資料の収集、保存だ。旧図書館から司書の数が大幅に減っている中、公立図書館としての役割を果たせるかが問われている。

新市民図書館は、レンタル大手「TSUTAYA」を運営する「カルチャ・コンビニエンス・クラブ（CCC）」が指定管理者¹を務める。屋上にテラス席を設けるなどこれまでの図書館にないような空間を作り、市からは市街地のにぎわいづくりの拠点になることが期待されている。

「キーノ和歌山」開業 新市民図書館にぎわう

一方、公立図書館としては、市民に読書の機会を提供するだけでなく、地域資料の収集や保存をする役割が求められている。図書館法では図書館の定義として「図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存」する施設と記されている。

和歌山市民図書館に特徴的なのは、移民資料室の存在だ。現在約1万点の資料がある。日本図書館協会によると、移民関連の資料を集める施設としては、全国でも有数の存在という。

旧図書館の資料室で司書を務めた中谷智樹さん（64）によると、ただ本を貸すだけでは個性がないと、全国でも有数の移民送り出し県だった和歌山という地域の特色を生かそうと、1984年に開かれた。その後、中谷さんや先輩の司書が中心になり、書籍や郷土史だけでなく、ブラジルの邦字紙、移民関係の記事のスクラップなど、資料の収集に努めた。全国各地から移民研究の専門家が訪れ、親族に移民がいる人がルーツを探しにやってくることもあった。調査の回答の際に経験や知識が問われるだけでなく、培った人脈を通じて資料を手に入れたこともあった。

移民資料室をはじめ、郷土資料の収集や保存を担う中心が、専門職の司書だ。ただ、CCCが指定管理者となった新しい図書館に移行する中で、司書の数は大幅に減った。CCCによると、旧図書館（昨年3月時点）では職員37人中32人が司書だったが、新図書館ではパート従業員らを含む職員56人のうち司書は16人になったという。

新図書館での司書のうち、旧図書館でも勤務をしていたのは6人で、他は県内で新たに採用した司書や、CCCが運営する他地域の図書館から移ってきた司書。市とCCCは、旧図書館から引き続き勤務する司書から経験を共有すると説明する。

市とCCCは、旧図書館でも司書の全員が図書館業務にあたっていたわけではない上、市が求める「パ

¹ 指定管理者については、次の指定管理者制度を参照のこと。指定管理者制度：地方公共団体が設置する文化施設などの公の施設の管理、運営を株式会社やNPOを含む民間事業者に行わせることができる制度。指定管理者の指定は自治体の長が条例で定め、許可を与える。2003（平成15）年9月の改正「地方自治法」の施行により導入された。（『図書館情報学用語辞典』第5版，JapanKnowledge Libより抜粋・一部改変。https://japanknowledge.com/lib/display/?lid=509600664.2023/09/10より）

ート従業員らを除く全従業員の半数以上は司書資格保有者」という基準も満たしているとする。また、展示方法の工夫などを通じて市民に広く資料を知ってもらうことで、司書の数に関係なく公立図書館としての役割を果たせるという。自身も司書資格を持つ平井薫館長は「司書は数として減ってはいるが、資格取得のサポートなどで増やす努力をしていく」と話した。

移民の研究者で、10年以上、移民資料室を調査で使ってきたという、国際日本文化研究センター（京都市）の根川幸男研究員は、「所蔵資料のことなら何でも知っているという方の存在は頼もしい。技術が発達しても、言語化しづらい情報からの資料検索には、人間の介在する余地がある」と、経験や知識のある司書の重要性を説明した。

中谷さんは新たな移民資料室に対し「10年、20年、100年という視野をもって、資料の収集や運営をしてほしい」と望んだ。

出典：朝日新聞デジタル 2020年7月7日より抜粋・一部改変

(https://digital.asahi.com/articles/ASN76756TN6HPXLB00T.html?iref=pc_ss_date_article.2023/09/10より)

※承諾番号:24-1101

【資料3】出版業界に必要な決断と覚悟とは 紀伊国屋書店・高井昌史会長に聞く

紀伊国屋書店と、蔦屋書店などを展開するカルチュア・コンビニエンス・クラブ（CCC）、出版取次²大手の日本出版販売（日販）が、出版物の共同仕入れを担う合弁会社の設立に向けて動きだしました。「書店主導の出版流通改革」を掲げる新会社の狙いとは。紀伊国屋書店の高井昌史会長に聞きました。

——業界の現状をどう見えていますか

出版物の返品率は依然として高く、取次の日販もトーハンも赤字。「地方の灯を消すな」と言われるけど、大都市でも書店がなくなっていつている。

一方、大手出版社の中には決算で最高益を出し、順調以上の経営をしているところもある。講談社、小学館、集英社、KADOKAWAの4社は、コミックやアニメ、電子書籍、それに海外事業が好調。とくにアメリカは出版の状況が非常によく、大手4社は海外需要に支えられている。ただ、その他の出版社になると、海外事業はほとんどやっていない。

——新会社では、日本の出版流通でこれまで一般的だった取次を介する仕入れではなく、書店が出版社から直接仕入れる仕組みを作っていくそうですね

返品率を下げるには出版社との交渉が必要。そのなかで当然、直仕入れも出てくる。3社の傘下の本屋を合わせると約1千軒になり、書店経由の出版物売り上げの20%強を占めている。それだけの規模の本屋が、出版社から直仕入れをするようになるかもしれない。

——3社の書店の全ての仕入れが、新会社を通すことになるのでしょうか

それは出版社との交渉によりますね。今もすでに、タイトルごとに直仕入れをしているケースもある。増やしていくかもしれないし、出版社によっては全部直仕入れになるかもしれない。「返品率をこれだけ下げる」など、条件次第でビジネスは成り立つわけですから。

取次大手が下した「決断」

——新会社では、直仕入れを前提とする仕組みに日販が加わったことが注目されました。新会社の仕入れシステムでは、日販は従来の出版取次業ではなく、物流業に徹するのでしょうか

（出版社との条件交渉などの）商流は新会社が担い、日販は物流を担うという流れを作っていく。従来の取次は減っていくでしょうね。ただ、日販も書店を持っているので、商流を全くやらないわけじゃない。出版社と商流の相談をするとき、日販のノウハウは必ず入ってくる。

日販は大きな決断をしたと思う。（トラックドライバーの長時間労働が規制され、人手不足で物流が

² 出版取次（しゅっぱんとりつぎ）とは、書籍・雑誌の卸売業者のこと。

滞る) 2024年問題に対処するためには、適正な送品をしてムダを減らさなきゃ駄目なんです。物流を任されるという決断を日販がしてくれたから、この3社でやることに固まった。

(取次が書店規模などによって機械的に配本する) パターン配本なんて言葉もあるけど、昔は全国の書店に大量に送って、売れなければボーンと返していた。今は取次もそんな非効率なことではできないから、送品を合理的にしようとしている。しかし地方はもちろん、都会の本屋でも本が届かず、欠品が出ることもある。

物流の経費が上がり、人手も足りなくなる来年、より一層合理化すると同時にお客様のニーズを満たす適正な送品にして、返品を減らすとともに欠品を防ぐことが求められる。今が最後のチャンスだ。

——出版科学研究所の発表によると、22年の返品率は書籍が32.6%、雑誌は41.2%でした
返品率は出版社の利益に直結する。業界全体の努力で少し下がったけど、やっぱり高い。さらに、書店にある在庫の中には劣化して返すに返せない本も多い。実態はさらに悪いんじゃないか。
紀伊国屋書店の返品率はだいたい27~28%。少なくともこれぐらいまで、業界全体として抑えていければと。

書店にも覚悟が必要

——紀伊国屋書店の返品率が業界全体と比べて低いのはなぜでしょうか
返品が多い原因の一つに、出版社から書店への送品の問題がある。うちは「PubLine」というシステムを使って店舗ごとの販売データや在庫データを出版社に提供することで、返品率を下げた。また、独自の在庫の自動補充システムがあるのも大きい。1冊ずつ単品管理していて、どの本がどの店舗に何冊残っているかが瞬時にわかる。ほかの業界では当たり前のことだと思うが、本屋は悲しいかな小資本で、システムになかなかお金をかけられないし、バージョンアップも難しい。うちは社内システム部があって、自前でシステムを組んでいる。

それから、新刊の配本指定。簡単にいえば、タイトルごとに店が出版社と直接やりとりをして、適正数を取次に入れてもらうということです。紀伊国屋の梅田本店と新宿本店でベストセラー本の取り合いになるなら、最初から仕入れ数を指定しておけば、書店もちゃんと売ろうという意識になる。機械的なパターン配本とは違うわけです。

——書店が主体性をもって本を仕入れるということですね。新会社でも「書店主導の出版流通改革」を掲げています

流通業には、川上と川下の問題がある。この業界ではこれまで、川下からの改革があまりなかった。でも、読者に一番近いのは本屋。書店が出版社や取次に言われるままだったら、何も変わらない。

業界ではずっと、書店の粗利率を30%まで引き上げようと言われていています。多分、最初に言い出したのは僕です。しかし、「30%ほしい！」と声高に言えば出版社がくれるかというところじゃない。書店が努力をして、出版社にとっても利益を生むような仕組みを作ってあげなきゃいけない。

書店側も覚悟が必要。場合によっては、8~9割を（委託販売ではなく）買い切るということも交渉のなかで出てくると思う。

紀伊国屋書店は海外にもたくさん店を持っていて、洋書も扱っている。洋書はほとんど買い切りで、利益はだいたい50%。売れなければバーゲンをする。利益率は下がってしまうけど、そのロスも覚悟する。うちの社員の3分の1ぐらいは、海外赴任や洋書の仕入れの経験があって、買い切りに慣れている。彼らのノウハウは、新会社にも生きてくると思う。

紀伊国屋書店の利益は、連結決算だと海外の方がずっと多い。蔦屋書店も海外に出店していて、いろんなアイデアをたくさん持っている。日販も関連会社で海外事業をやっている。3社でまだ具体的な合意はないけど、新会社でもやっぱり海外をめざしていきたい。

本屋を文化の拠点に

——新会社設立の発表時、CCCと紀伊国屋書店が手を組んだことにも驚きました

CCCの増田宗昭会長とは長い付き合いなんですよ。CCCは本屋の数が非常に多い。特に地方でたくさん展開している。蔦屋書店しかない町も結構ある。そういう町でこそ、行政や図書館、学校、家庭と手を組み、本屋を一つの文化サークルの拠点にして、町おこしみたいなことをやっていきたい。そういうモデルをたくさん作っていききたい。これ、かなり楽しくないですか？

去年の春、紀伊国屋書店が指定管理者になってリニューアルオープンした熊本県の荒尾市立図書館では、電子書籍をたくさん所蔵した。市内の小中学生にIDを付与して、学校や家庭でも使ってもらえるようにした。図書館の隣に本屋も作った。図書館には従来の数倍の利用者が殺到し、本屋も順調です。

——図書館と併設すると、本屋の利益が減るのでは

埼玉県では、さいたま市立中央図書館と同じ複合公共施設に紀伊国屋書店が入っているし、同じような例はすでにある。新刊書は本屋の方が潤沢にあるし、図書館で借りるか本屋で買うかはお客さんが判断する。どちらにせよ、本好きの人が集まる場所ができれば、読者がどんどん増えていくわけだから。

——新会社では、AI発注システムを活用した仕入れの適正化についても協議するそうですね。一方、AIによる仕入れだと、ベストセラー本や人気のジャンルに偏る恐れがあるのでは

AIに全部を任せるならパターン配本と同じで、昔に戻ってしまう。そうではなく、大切なのは書店の現場や、バイヤーの力。小さな地方出版社の本も含めてチェックして、良い本がお店に並ぶようにしなければならない。

現場には本に詳しい人が本当にたくさんいる。コミックを任せるならこの人、児童書はこの人、文芸はこの人とかね。彼ら彼女らが目をつぶって待っていればいいような商売はしません。読者が行きたいと思う本屋を、どんどん作っていききたいですね。

——読者が行きたくなる本屋とは、どんな本屋だと思いますか

長くいられる本屋だと思う。僕の場合、新宿本店に午前中に行ったら、昼飯を挟んで午後3時ごろまでいる。それがタダだもんね。昔はそういう人が結構いた。

新宿や梅田の紀伊国屋は、昔から待ち合わせスポットとしても人気だった。相手が遅れようが、本を読んでいればいい。そういう風景をもう一度、取り戻したいんだよね。

出典：朝日新聞デジタル 2023年9月9日より抜粋・一部改変

(https://digital.asahi.com/articles/ASR9864L5R95UCVL02M.html?iref=pc_ss_date_article.2023/09/15より)